

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します。

会報/市民後見人の会 No. 178

2022年9月30日発行 通巻No.188号

創刊2007年2月26日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井 1-15-1 品川成年後見センター分室3階

TEL: 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の10時～15時の間対応します。)

TEL&FAX: 03-6303-8265

◆月曜カフェ◆

本会事務局主催の第37回月曜カフェを開催しました。

日時: 9月26日(月) 10時～12時/**場所:** 品川区社協ボランティア活動室

発表者: 馬庭信一郎/**進行役:** 大岡朋子/**出席者:** 8名

テーマ: 初めての後見活動を振り返って

馬庭信一郎(理事)さんに初めての後見活動の体験を語って頂きました。

- ① 初めて担当した方は当時76歳の男性で本会受任当時は品川区立のサービス付高齢者住宅に住んでいた。年金はそこそこあったが預貯金は無かった。
- ② 感情の起伏が激しく施設職員に乱暴な振る舞いをする事があり他の利用者トラブルになる事もあった。施設から「私たちはプロだから対応できるが他の利用者さんに危害を加えられたらいけないので出て行ってもらいたい」と言われ次の施設、その次の施設でも同じことがあり、結果的に1年半の期間で3ヶ所の施設移動を余儀なくされた。
- ③ 3箇所目の施設で持病の心不全の悪化で亡くなったが、私たちが訪問すると別れる時にエレベーターの前でドアが閉まるまでお辞儀をされていた姿が思い出される。
- ④ 亡くなった時は負債が残り離婚した妻との間に3人の子供がいたが長年音信不通で、相続人調査をするか意見が別れたが、相続人調査を実施し、長女と連絡が取れた。
- ⑤ 長女から相続放棄と遺骨の引取りも拒否されたが「お父さんが会えるものならもう一度会いたい」と言っていたと伝えると「父の一面を知ることが出来て良かった。」と感謝の言葉を聞くことが出来た。
- ⑥ 初めての後見体験で戸惑うこともあったがこの時の経験がその後の活動に大いに活かしている。

馬庭さんの発表後、活発な意見交換がなされ充実した2時間でした。

◆より活発な活動を◆

理事長 高原三平

約2年8か月コロナ禍が続いております。その間、皆さんで集まり楽しい会話を交わす機会も少なく、会の活動が今一つ盛り上がりには欠けたことは否定できません。今、コロナの影響も一段落した感があります。だからというわけではないのですが、ここで、会の活動をより活性化したいと願っております。それには会員の皆さまの力をより一層必要としております。

時間に余裕ができ、社会貢献を身近でやりたいとお考えの方、また、ご自身の今まで培ってきたスキルを活かしたいと考えている方、どうか一緒にやろうではありませんか。

特に求めているのは、以下に記すことに興味をお持ちの方々です。

1. 事務局 (連絡先) 事務局長：高原 090-9393-7206

- ① NPO 法人運営
- ② ITC (情報通信技術) 管理
- ③ 広報 (ホームページ、会報、会のチラシ等)
- ④ 会運営の会計・財務

2. 後見部会 (連絡先) 部会長：斉藤裕 090-7685-9829

- ① 後見人等の活動
- ② 家庭裁判所と行政 (社協含む)
- ③ 成年後見制度利用促進

3. 研修・相談部会 (連絡先) 部会長：杉谷 090-3909-2828

- ① 市民後見人養成講座運営
- ② スキルアップ講座運営 (講師、見学先選び)
- ④ こうけんカフェ (認知症カフェ) 運営

無論、スキルはなくとも、ヤル気のある方大歓迎です。どうか、手をあげてください。最初は、事務局、各部会にオブザーバーとして出席して頂き、様子を見てください。

その他、私が毎月の月曜日、よろず相談を兼ねて事務所に詰めております。どうぞご連絡下さい。

いま、店頭においてある『婦人公論 10月号』に上野千鶴子さん(社会学者)と樋口恵子さん(評論家)による「暮らしを守る介護保険、改悪は許しません!」という対談が載っています。上野さんが「介護の人手不足と言いますが(中略)介護職の方たちの介護報酬を上げる事しかありません。あのコロナ禍で現場の奮闘ぶりを見たのか、さすがに減額はされなかったが上がりでも微々たるもの。介護職の待遇改善のためにも、次の改訂で介護報酬の切り下げを許してはなりません」と語っています。介護の仕事をしている知人から話しを聞いた事がありますが「明るくなければやっつけられない」と言われたのが印象に残っています。(編集 金城 清)